仙台市

生産性向上ロールモデル創出支援事業

DX事例集

仙台市 SENDAI CITY

お問い合わせ

［発行］
仙台市 経済局 産業政策部 中小企業支援課（運営事務局：株式会社フォーバル）

〒980-0803　仙台市青葉区国分町3-6-1　仙台パークビル9階

Tel：022-214-1003

CONTENTS

03

CHAPTER 01 事業詳細

CHAPTER 02 支援事例紹介

04 株式会社ファミリーメイト
デジタル日報による業務効率改善!

05 株式会社スリー・アール
Microsoft365の活用による業務効率改善

06 丸繋株式会社
VBA構築による業務効率改善

07 株式会社KOGEI
Excel管理脱却!データドリブン経営で切り拓く新たな未来

08 合同会社Grand-link
マクロの活用による業務効率改善

09 株式会社建築工房零
未来に向けたDX推進計画の策定

10 スモリ工業株式会社
紙文化からの脱却!業務効率化と新時代の働き方

DXで生産性向上や売上拡大を目指しませんか?

デジタル技術を活用した業務変革等に取組む市内の中小企業を対象に、専門家による、課題の分析から目標設定、解決に向けた伴走支援を行い、生産性向上のロールモデルとなる事例を創出し、市内中小企業にDX化の取組の波及を図ります。

STEP 01

現状の可視化

支援の始めに、DXスタート診断を実施して現状について可視化し、開始時点での強みや今後補強していくべき課題点を明確にします。

現状把握

ヒアリングの実施と直近3ヶ年決算書(最低で直近1ヶ年)を収集。現状把握を行います。

可視化

業務で扱う情報について流れ・媒体・受け渡し方法などをヒアリングします。その後、一覧表にて可視化(専門コンサルタントが作業)いたします。

課題整理

診断結果を元に課題を整理。課題によって「**DXによる売上拡大**」「**DXによる業務改善**」「**DXによるリスク回避**」の3テーマに沿った短期〜長期の目標を設定します。

STEP 02

計画書の作成

STEP1での実施内容に基づき、支援企業ごとに仮説DX推進計画を策定。経営者の意向に基づき、売上拡大、業務効率化、リスク回避の課題解決計画を立案し、KPIを設定します。計画書を作成し、経営者と実務担当にご説明し、合意形成を図ります。
その後、デジタルツールの導入支援を行い、既存ツールがあればベンダーと打ち合わせし、運用・サポート体制を整備。ツールの導入後も、自社で活用できる状態を目指し支援いたします。

STEP 03

補助や制度のご案内

ITツールの導入にかかる費用の補助として、公的機関の各種補助や助成制度を支援企業へご案内。また、担当するDXアドバイザーが導入したITツール提供先と連携することでツールをより活用できる環境を整え、課題解決を支援します。

STEP 04

効果測定

「DX推進度診断」を実施し、支援開始時との差異を明確にし、さらなる改善に向けたサポートを実施します。初期の可視化結果を再度分析し、実行計画や現状との乖離点など、課題を再度認識・分析し、その後の解決方針を策定。これにより、課題の明確化やDXのモチベーション向上につながります。

CASE 01

業務改善

株式会社ファミリーメイト

所在地	〒981-3106 宮城県仙台市泉区歩坂町40-7
事業内容	サービス業（他に分類されないもの）
従業員数	62名

デジタル日報による業務効率改善！

参加の経緯

今回の事業への参加は、仙台市とフォーバル社からのご案内がきっかけでした。当初はDXの必要性を感じつつも、具体的に何から手を付けるべきかわからず、業務の非効率さを抱えながらも現状維持が続いていました。支援の案内を受けたことで、デジタル化による業務改善の可能性を具体的に検討する機会となり、DX推進の第一歩として参加を決意しました。

支援で取り組んだ内容

支援の中では、まず業務フローの可視化を行い、課題を明確にしました。

■勤怠管理や日報管理が紙ベースで非効率
■情報共有が属人的で整理されていない
■データの転記作業が多く、時間がかかっていた

これらの課題に対して、デジタル化を進めるために以下の取り組みを行いました。

■デジタル日報の導入により、リアルタイムでの情報共有を実現
■社内報のペーパーレス化により、印刷コストと手間を削減

特にパート従業員の管理がスムーズになり、情報の整理や確認の負担が軽減されました。

今後の展望

今後は、さらに業務効率を高めるために以下の取り組みを進めていく予定です。

■勤怠管理システムを給与管理と連携させ、よりスムーズな給与計算を実現
■パート従業員の勤怠管理を効率化し、現場業務の負担を軽減
■地域貢献を視野に入れた、新たなサービスの展開

特に、地元の高齢化に対応した家事代行や見守りサービスの導入を検討しており、DXを活用した地域密着型の事業展開を目指しています。

伴走支援を通しての感想

今回のDX推進に取り組むことで、業務の可視化や効率化の重要性を改めて認識しました。また、DXは単なるデジタルツールの導入ではなく、社員やパート従業員の意識改革も重要であることを実感しました。支援を通じて、社内の働き方改革が進み、社員の意識も変わってきました。

■デジタル化の導入により、社員の意見が活発に出るようになった
■スマートフォン支給を決定し、業務の利便性を向上
■効率化によって、より重要な業務に時間を使える環境が整った

今後も、継続的にDX推進を進め、より働きやすい環境を整えていきたいと考えています。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2丁目15-1 きづな PARK TX　■支援担当者：相澤 佑哉　■執筆者：石渡 豊

CASE 02

業務改善

株式会社スリー・アール

所在地	981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-38 柏木丁ビル4F
事業内容	複合サービス業
従業員数	11名

Microsoft365の活用による業務効率改善

参加の経緯

これまで、業務が会長及び社長に依存している状態（属人化）が課題になっておりました。営業活動や業務の流れを整理し、効率化を図り、生産性をあげていきたいという思いで、事業に応募しました。

支援で取り組んだ内容

■業務の可視化

これまで明確に整理されていなかったビジネスフローを可視化し、業務の流れを共有可能にしました。

■DX推進

◎社内コミュニケーションツールとして「LINE WORKS」の導入・試行
◎マイクロソフトTeamsやGoogle Formsなどのデジタルツールの検討・導入

■属人化の解消

◎業務データの管理体制を強化し、情報共有を進める
◎議事録の記録・共有を簡略化し、情報伝達の効率を向上

今後の展望

［短期目標］

新プロジェクトにおいて、Teamsを活用したプロジェクト管理を試みて、社内で活用できるようにしていきたいと思います

［短期目標］

■業務の効率化をさらに推進し、社長・会長の負担を減らす

■属人化を解消し、社員に業務を分担させることで、新規事業に取り組む時間を確保

■組織の拡大を見据え、DXを活用した管理体制を強化し、社員数の増加を目指す

伴走支援を通しての感想

■可視化の重要性 業務フローを整理することで、課題が明確になり、業務の改善点を発見できた。

■支援の価値 DX推進の考え方や具体的なツールの活用方法を学べたことは大きな成果。

■社外の力を活用する重要性 「自社だけでDXを進めるのは難しいため、頼れるところに頼ることが大切」と実感。

■今後の課題 導入したツールの社内定着や、社員のデジタルリテラシー向上が課題。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2丁目15-1 きづな PARK TX　■支援担当者：横山 貴司　■執筆者：奥山葵生

CASE 03

業務改善

丸繁株式会社

所在地	〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野1-20-12
事業内容	卸売・小売業
従業員数	11名

VBA構築による業務効率改善

参加の経緯

本企業は従来、アナログな業務プロセスが中心で、紙ベースの管理やFAXの使用が主流でした。しかし、業界全体でスピード感が求められるようになり、従来の手法では競争力が低下することに危機感を抱いていました。特に、新規採用が難しい状況下で効率的に業務を進める必要性を感じ、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の導入を検討。その際、外部の伴走支援の提案を受けたことがきっかけで、取り組みを開始しました。

支援で取り組んだ内容

■業務の棚卸し

◎どの業務が非効率なのかを可視化し、課題を整理。

◎主に営業フローと事務管理の改善に焦点を当てた。

■導入済みツールの効率化

◎機工メイトとZohoCRMを導入していたが、転記作業が発生しており二重工数になっていた。そのため、転記作業をなくすために、システム構築をおこない、ワンクリックで業務効率改善ができるように勧めている。

■社内体制の見直し

◎役員や管理職だけでなく、現場のリーダー層を巻き込む形で推進。

◎権限委譲を進め、業務推進の主体を分散化。

◎社員のITスキル向上のために、資格取得の支援も推奨。

■意識改革

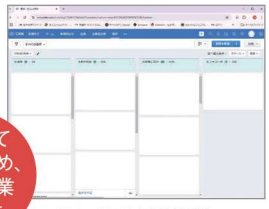
◎役員や管理職だけでなく、現場のリーダー層を巻き込む形で推進。

◎社員が自主的にデジタルツールを活用する文化を醸成。

Before

機工メイト（販売管理）

連動していないため、転記作業が発生



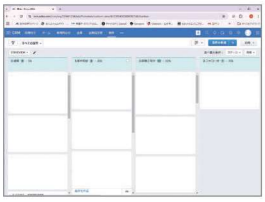
ZohoCRM（案件管理）

After

機工メイト（販売管理）

変換プログラム

機工メイトの吐出しデータをZohoCRMの取り込みデータに変換することで、転記作業がなくなる。



ZohoCRM（案件管理）

今後の展望

[1年後]
社内のDXをさらに推進し、定着化を目指す。

[3年後]
物販以外の新たな事業を模索。デジタルやロボット技術を活用した新規事業の立ち上げを検討。

[5年後]
会社の事業モデルを進化させ、継続的な成長を図る。

伴走支援を通しての感想

■業務の課題が明確になり、どこから改善すべきかが整理できたことが大きな成果。
■デジタルツールの導入は進めたものの、現場の習慣を変えるのに時間がかかると実感。
■社員の意識改革が進み、自主的にITスキルを学ぶ動きが出てきたのは良い兆候。
■伴走支援がなければ手をつけられなかった部分もあり、外部支援の重要性を認識。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2丁目15-1 きづな PARK TX　■支援担当者：可沼 洋昭　■執筆者：石渡 豊

CASE 04

業務改善

株式会社KOGEI

所在地	〒984-0001 宮城県仙台市若林区鶴代町2-60-8
事業内容	サービス業（他に分類されないもの）
従業員数	3名

Excel管理脱却！データドリブン経営で切り拓く新たな未来

参加の経緯

仙台市から案内があり、DXセミナーの参加をしました。現状アナログ管理及び業務が属人的になっていることやExcel等に限界を感じていることから本事業で業務改善をおこない生産性をあげていきたいと思い、伴走支援にお申込みをしました。

支援で取り組んだ内容

■業務フローの可視化

◎データフローを整理し、業務プロセスのどこに課題があるかを見える化しました。

◎Dropboxでデータ共有ができているがExcelの案件管理に限界があることがわかりました。

■課題の明確化と整理

◎業務の属人化脱却と煩雑なExcel管理の脱却に向けて、Kintoneを活用した業務改善に着手していくことにしました。

■Kintoneの開発運用

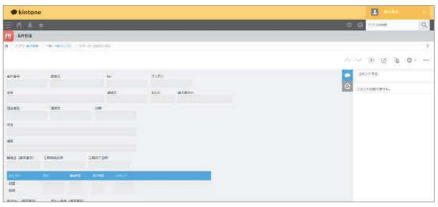
◎顧客管理及び案件管理をExcelでおこなっていたものを、kintoneを活用することによって情報が検索しやすくなり、見える化ができるようになった。

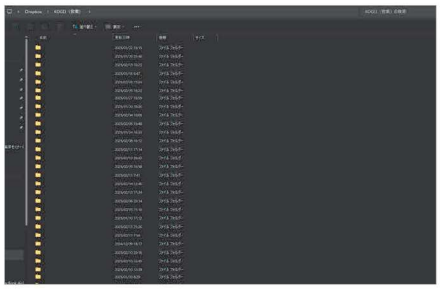
◎請求書及びステータス管理。これまでExcelやDropboxを活用していて、不便になっていたものを、kintone活用することによって、手間が大幅に減った

今後の展望

社内基盤の構築

これまではアナログで業務をおこなっており、データの蓄積ができていなかったが、今回ITツールをしたことによって会社に情報の蓄積ができることによって今後データを活用した売上拡大等に繋げていきたい。





伴走支援を通しての感想

■専門家による多角的なアドバイスを受けたことによって、何をどうすればいいのかわかった。

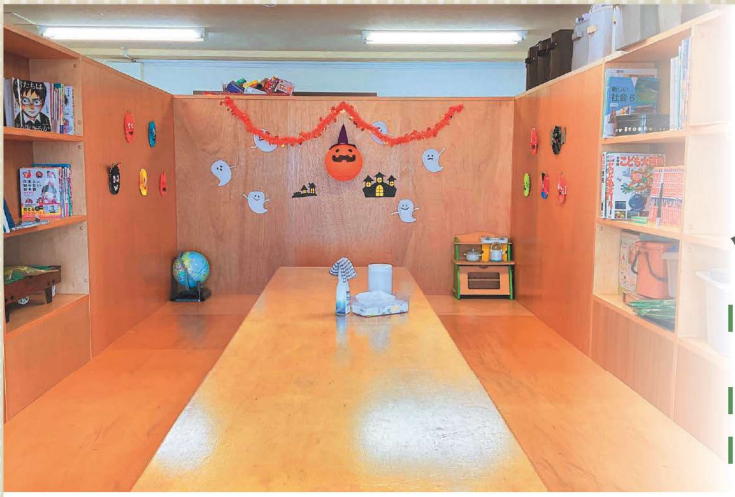
■可視化をすることによって自社の課題が把握できた。

■計画書を策定したことによって次何をどうすればいいのか明確になった。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2丁目15-1 きづな PARK TX　■支援担当者：可沼 洋昭　■執筆者：石渡 豊

CASE 05

業務改善



合同会社Grand-link

所在地	〒980−0013 宮城県仙台市青葉区 花京院2丁目1-54 ダイワ旭ビル302
事業内容	サービス業（他に分類されないもの）
従業員数	6名（パート含む）

マクロの活用による業務効率改善

参加の経緯

仙台市から案内をいただき、セミナーを視聴してDXについて考える機会となりました。保育・福祉分野では現場業務が中心であり、デジタル化の必要性を感じながらも、大規模なシステム導入にはコストやリソースの面でハードルが高いと考えていました。そうした中で、転記作業の効率化など、身近な業務改善から始められる可能性を感じ、本プロジェクトに参加することになりました。

支援で取り組んだ内容

本プロジェクトでは、まず業務の可視化を行い、現状の課題を整理しました。特に、以下のような点が課題として浮かび上がりました。

- ■紙ベースや手作業による管理が多く、ミスが発生しやすい
- ■転記作業が多く、業務負担が大きい
- ■保護者との連絡手段がLINEであるため、情報の管理・整理がしにくい

これらの課題を踏まえ、Excelのマクロを活用した転記作業の自動化に取り組みました。具体的には、一度データを入力すれば各種管理表に自動反映される仕組みを構築し、手作業による転記の手間を大幅に削減しました。

今後の展望

システムの開発を進め、3月初旬より運用を開始しています。実際に現場で使い続けることで、さらなる改善点が見えてくることが予想され、今後も社員やパートスタッフの意見を取り入れながら、細かい修正を加えていきたいと思います。
また、将来的には、さらなる業務効率化を目指し、他の管理業務にもDXの考え方を取り入れていきたいと考えています。

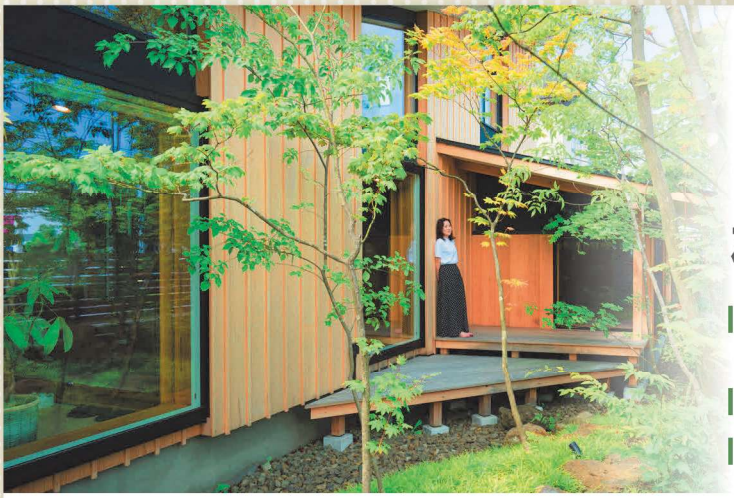
伴走支援を通しての感想

本プロジェクトを通じて、DXは必ずしも大規模なシステム導入を伴うものではなく、身近な業務の効率化から取り組めることを実感しました。また、業務の可視化や課題整理を丁寧に行うことで、的確な改善策を導き出せることを学びました。
ベンダーとのコミュニケーションにおいても、事前に自社の課題や要望をしっかり整理しておくことが、スムーズな開発につながると感じました。今回の支援を通じて、業務効率化の第一歩を踏み出すことができたことを嬉しく思っています。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2丁目15-1 きづな PARK TX　■支援担当者：可沼 洋昭　■執筆者：石渡 豊

CASE 06

業務改善



株式会社建築工房零

所在地	〒981-3213 宮城県仙台市泉区南中山4-3-16
事業内容	建設業
従業員数	49名

未来に向けたDX推進計画の策定

参加の経緯

社内に複数のデジタルツール・システムが乱立しており、管理が煩雑になっていることを課題に感じていました。それらのツールの機能を使いきれておらず、使用するツールを統廃合することで効率化を図りたいです。

支援で取り組んだ内容

■業務フローの可視化

◎各部署で使用しているシステムやツールを整理し、それぞれの役割とカバー範囲を明確化しました。

■課題の明確化と整理

◎システムやツールが多数存在する中で、部署ごとに使用の有無が異なり、全社的な統一が難しい状況を把握しました。

◎効率化を図るために、ツールの選定基準や統合の方向性を考えました。

■DX戦略の検討

◎これまでの取り組みを整理し、今後どのようにシステムを統合・最適化するかを議論しました。

◎すぐに成果が出るわけではないものの、生産性向上を目指す方向性を確認しました。

■意思決定の判断基準づくり

◎システム選定や導入において、判断基準が明確でないため決めきれないことが課題でした。

◎外部の専門家の意見を取り入れることで、社内での意思決定の説得力を高める必要があることが分かりました。

今後の展望

■業務のさらなる効率化とシステム統合

◎既存のツールの整理を進め、不要なものは廃止し、必要なものに統合していく。

◎データの利活用を進め、業務の最適化を目指す。

■人材育成

◎デジタル化を推進できる人材の育成が必要。

◎若手社員の増加に伴い、ベテラン世代や協力会社へのデジタル化対応も課題として残っている。

伴走支援を通しての感想

- ■課題を具体的に整理し、可視化できたことが大きな成果だった。
- ■社内で「なんとなく課題だと感じていたこと」が、外部の専門家の意見を通じて正式な課題として認識できた。
- ■システムの選定や導入における「判断基準の明確化」が大きな課題であり、外部の知見を活用しながら進めていく必要があることを再認識した。
- ■DXの推進には、単なるシステム導入ではなく、業務プロセスの改善や社内文化の変革が不可欠であると感じた。

■支援実施企業：株式会社フォーバル東北支社　■住所：〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2丁目15-1 きづな PARK TX　■支援担当者：横山 貴司　■執筆者：奥山 葵生

CASE 07

業務改善

スモリ工業株式会社

所在地	〒983-0013 宮城県仙台市宮城野区中野1丁目5-9
事業内容	建設業
従業員数	89名

紙文化からの脱却！ 業務効率化と新時代の働き方

参加の経緯

本プロジェクトへの参加のきっかけは、社内のDX化を推進し、業務の効率化を図ることでした。特に、契約書の電子化や社内システムのクラウド化を進めることで、業務フローを改善し、生産性を向上させることが求められていました。また、仙台市からの支援の声がけがあったことも、大きな後押しとなりました。DX化の必要性は以前から認識していたものの、日々の業務に追われ、実際の取り組みが進んでいなかったため、伴走支援の機会を活用することで、具体的なアクションへと移行しました。

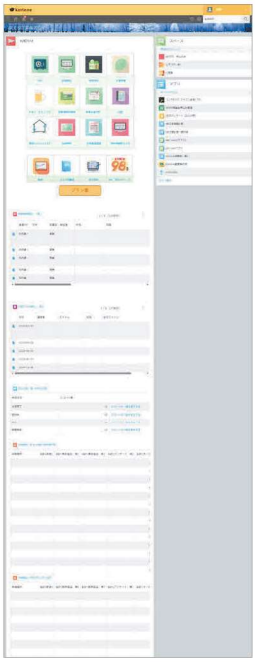
支援で取り組んだ内容

■契約書の電子化

◎以前は紙の契約書を使用していたが、電子契約に切り替えた。
◎2024年11月にテスト運用を開始し、12月から本格導入。
◎事前に考えられる問題点のアドバイスを受け、スムーズに移行。

■進捗管理のクラウド化

◎これまで社内でしか確認できなかった進捗管理をクラウド化し、外部からもアクセスできるようにした。
◎DX化によって、業務の透明性を向上。



■DX推進体制の構築

◎部署ごとに責任者を配置し、DX推進のための体制を整備。
◎これにより、組織全体としてDXの取り組みがしやすくなった。

■部署間連携の強化

◎DXを進める中で、各部署ごとの課題が明確化。
◎次のステップとして、部署間のデータ共有や業務の一元化を図る。

■外部業者との連携強化

◎これまで業者が紙の資料を受け取りに来る必要があったが、クラウドを活用し、外部から確認できるように改善。
◎業者側の移動時間・人件費削減に貢献。

今後の展望

◎DX化の全社展開: 現在は一部の部署で取り組みを進めているが、今後は全社的にDX化を進め、より効率的な業務体制を構築していく。

◎部署間の連携強化: DX化によって各部署の課題が見えてきたため、今後は部署間のデータ共有や業務の一元化を図る。

◎社内の業務可視化の推進: DXを活用して、社員一人ひとりの業務を見える化し、タスク管理の最適化を進めることで、生産性向上を目指す。

◎新たなシステムの導入: さらなる業務効率化のため、社内で利用するシステムの統一や新しいツールの導入を検討。

伴走支援を通しての感想

■伴走支援がなければ、DX化の取り組みは体制の整備で終わってしまった可能性があった。しかし、支援を受けたことで、次に何をすべきか明確になり、継続的な改善が可能となった。

■DX推進には、社内の意識改革が重要だと感じた。支援を受けることで、DXの必要性を社員が認識し、徐々に取り組みやすくなった。

■具体的なアドバイスを受けたことで、漠然としていたDX化のイメージが明確になり、実行しやすくなった。

■DXは単にデジタル化することではなく、業務の無駄を削減し、生産性を向上させるための手段であることを再認識した。

■支援実施企業:株式会社フォーバル東北支社　■住所:〒981-0915 宮城県仙台市青葉区通町2丁目15-1 きづな PARK TX　■支援担当者:横山 貴司　■執筆者:奥山 葵生